

呼吸器疾患治療剤、感覚器官用剤、抗アレルギー剤、皮膚疾患治療剤、解毒剤の
 医療用医薬品の国内市場を調査

—2010年医療用医薬品市場調査(3)—

—2010年の市場見通しと09年比伸び率—

- 皮膚疾患治療剤 1,040億円 6.6%増 男性脱毛治療の位置づけ明確化も貢献
- 呼吸器疾患治療剤 3,069億円 1.6%増 吸入ステロイド剤が市場成長を促進
- 感覚器官用剤 2,067億円 0.9%増 緑内障、加齢黄斑変性症の新薬が牽引
- 抗アレルギー剤 1,414億円 13.3%減 09年のスギ花粉飛散量減が影響

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、医療用薬剤全24分類の国内市場を今年1月から2年かけて6回に亘り調査を行なっている。

第3回の今回は、呼吸器疾患治療剤、感覚器官用剤、抗アレルギー剤、皮膚疾患治療剤そして解毒剤市場の調査結果を、報告書「2010 医療用医薬品データブック No. 3」にまとめた。

この調査では、疾病概要、患者数、エビデンス(調査研究に基づく、医薬品・治療・検査方法などの適正判断用証拠)・診療ガイドラインの動向、治療薬剤、企業の製品開発などを調査・分析した。また行政の動向やジェネリック医薬品の浸透度、スイッチOTCの現状など、この市場に影響を及ぼす要因を分析した。

<注目治療剤市場>

● COPD治療剤(慢性閉塞性肺疾患 呼吸器疾患治療剤)

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
314億円	332億円	5.7%増	370億円	11.4%増

09年に診断・治療のガイドラインにタバコと明記された煙を長期に吸入曝露して発症する肺の炎症性疾患である。患者数は非常に多いと推定されるが治療を受けている人はその1割にも満たないという現状である。喫煙や、受動喫煙がCOPDリスクを高めるとして、厚生省の検討会は今秋には提言をまとめる予定である。

長期喫煙者はたとえ禁煙しても5~60才代に罹患する確率が高く今後2~30年は患者の増加が予測される。治療剤は、気管支拡張剤として抗コリン剤、 β_2 刺激剤、テオフィリン製剤が投与され、抗炎症薬として吸入ステロイド剤が使われる。抗コリン剤の日本ベーリンガーインゲルハイム「スピリーバ」、吸入ステロイド剤/ β_2 刺激剤の配合剤のグラクソ・スミスクライン「アドエア」があり、今後も実績が拡大すると予測される。

● 禁煙補助剤(呼吸器疾患治療剤)

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
31億円	46億円	48.4%増	52億円	13.0%増

10月1日からタバコ税率引き上げによる価格改定が実施されて、2,600万人といわれる喫煙者がかなりの割合で禁煙に取り組むと予測される。その際、禁煙治療を医療機関を頼りに行なうか、OTC医薬品で独力で行なうかでこの市場が左右されるだけに、医薬品メーカーにとっては“禁煙治療は医療機関で”という構図をいかに創り上げるかが重要となる。

治療剤は、ノバルティス ファーマ「ニコチネルTTS」、ファイザー「チャンピックス」の2製品のみである。ファイザーは「チャンピックス」発売と同時に禁煙治療のプロモーション活動を活発化し、自社サイトやテレビCMなどで“禁煙治療は医療機関で”を浸透させて実績の拡大に繋げている。今後、専門の医療機関で治療を受けるほうがより確実に禁煙効果が得られるとエビデンスを示して直接喫煙者にPRすれば、OTC医薬品よりも医者に頼る喫煙者も増えると考えられる。

● 加齢黄斑変性症治療剤（感覚器用剤）

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
40億円	109億円	2.7倍	116億円	6.4%増

黄斑変性症治療剤は、加齢に伴い網膜の黄斑部に障害が生じる疾患である。高齢化を迎える日本では患者の増加が予測される。ここ数年、医師や患者にこの疾患が認知されており、啓発活動も本格化していることから、治療患者の大幅な拡大が予測される。この疾患は欧州で失明率が最も高く、日本でも失明率こそ4位と低いが、潜在患者数の多い疾患である。

04年にノバルティス ファーマ「ビスダイン」が発売されると、静脈静注と眼科用レーザー光線力学療法の専門医を育成して普及に努めた。しかし市場は治療のし易さから、09年3月発売の硝子体内注射薬ノバルティス ファーマ「ルセンチス」に移っている。専門医から海外での臨床データの多さが期待されることもあり、「ビスダイン」で開拓した医師に、薬剤と硝子体内注射法を認知してもらうことで発売1年以内にトップブランドへと成長している。

<調査結果の概要>

1. 呼吸器疾患治療剤

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
2,879億円	3,021億円	4.9%増	3,069億円	1.6%増

09年実績でこの市場の60%を占める喘息治療剤、同19%の呼吸促進・鎮咳・去痰剤、同11%のCOPD（タバコの煙による肺の炎症疾患）治療剤、消炎酵素・総合感冒剤それに禁煙補助剤を対象とする。

喘息やCOPD治療剤として吸入ステロイド剤の実績が伸びて全体を押し上げている。喘息患者は小児が多い。少子化の影響で小児人口は減少しても、喘息の主原因であるアレルギー（ダニ、カビなど）患者が増加しており、小児の喘息患者に減少は見られない。

COPDは長年の喫煙が原因となるため長期喫煙者は禁煙した後も罹患する。長期喫煙者がこれから高齢になることからCOPD患者は確実に増加し、治療剤市場が拡大すると予測される。世界的な禁煙の流れから治療患者が増加して、禁煙補助剤も拡大すると予測される。

吸入ステロイド剤の伸びが顕著であり、この市場を牽引している。なかでも吸入ステロイド剤/ β 2 刺激剤の配合剤が高い治療効果により実績を拡大している。グラクソ・スミスクライン「アドエア」は喘息とCOPD治療で投与され、喘息治療に使われているアステラス製薬「シムビコート」もCOPD治療でも採用されることを目指している。吸入ステロイド剤は2つの疾患の治療剤として優先順位の高い製剤と位置付けられており、今後も拡大が期待されている。

2. 感覚器用剤

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
1,940億円	2,048億円	5.6%増	2,067億円	0.9%増

緑内障治療剤は、患者数が多く最も失明率の高い疾患であることから、感覚器用剤市場の35%を占めて全体動向を左右する。緑内障以外のその他眼科疾患治療剤市場は、話題性の高い黄斑変性症治療剤やマーケットの大きいアレルギー結膜炎などを対象としている。またコンピュータ作業の増加にともないドライアイの患者数が増加している。10年には新規薬剤の発売が予定されており、市場は拡大が続くと見込まれる。最近注目の加齢黄斑変性症治療剤はノバルティス ファーマ「ルセンチス」で大市場が形成され、10年は更に市場拡大が見込まれる。

点鼻剤・点耳剤は、点鼻ステロイドにMSD（旧シェリング・プラウ）「ナゾネックス」、グラクソ・スミスクライン「アラミスト」が発売されたことで、製品の切り替えが進んでいる。

3. 抗アレルギー剤

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
1,636億円	1,631億円	0.3%減	1,414億円	13.3%減

この市場はアレルギー性鼻炎、中でも花粉症をターゲットとしており、今後もこの患者の動向が市場を左右すると予測する。09年に改定された「鼻アレルギー診療ガイドライン」でも新有効成分が追加されるわけではなく、既存のトロンボキサン₂拮抗剤やTh₂サイトカイン阻害剤が追加されるに留まり、市場にインパクトを与えるに至らなかった。今後もガイドラインに新有効成分が追加されなければ、抗アレルギー剤＝ヒスタミンという構図

は変わらないと考えられる。こうした状況から、OTC医薬品との競合も、またジェネリック医薬品とも競合すると考えられる。

4. 皮膚疾患治療剤（原則として外用剤）

2008年	2009年	08年比	2010年見込	09年比
921億円	976億円	6.0%増	1,040億円	6.6%増

治療薬には、外用抗菌剤、外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤、褥瘡治療剤、脱毛症治療剤がある。

外用抗菌剤の市場シェアの約60%を占める抗真菌剤市場は縮小が続いている。一方で、塩野義製薬の痤瘡治療剤「ディフェリン」とその啓発活動によりその市場が伸びて、外用抗菌剤市場全体としては拡大している。角化症・乾癬治療剤や鎮痒剤を含むその他の外用剤市場が拡大しているため、外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤の市場規模は拡大している。10年1月に田辺三菱製薬の生物学的製剤「レミケード」及びエーザイ「ヒュミラ」が乾癬治療に採用されており、10年もその他の外用剤市場の拡大が続くと見込まれる。

褥瘡患者は減少し続けているが、トップブランドである科研製薬の褥瘡治療剤「フィブラスト」の拡大により、褥瘡治療剤の市場規模は下げ止まっている。脱毛症治療剤市場はMSD（旧万有製薬）の脱毛症治療剤「プロペシア」による積極的な患者へのDTC活動により拡大している。また、OTCである大正製薬の育毛剤「リアップ」はミノキシジル5%製剤である大正製薬育毛剤「リアップX5」を09年6月に発売しており、OTCを含めた市場全体が活況を呈している。

以上

<調査対象領域>

1. 抗アレルギー剤（外用、点眼、点鼻、点耳剤は除く）
2. 感覚器官用剤 1) 緑内障治療剤 2) その他眼疾患治療剤（ベーチェット病含む） 3) 点鼻剤・点耳剤 4) メニエール病治療剤（鎮暈剤含む）
3. 皮膚疾患治療剤 1) 外用抗菌剤 2) 外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤 3) 褥瘡治療剤 4) 脱毛症治療剤
4. 呼吸器疾患治療剤 1) 喘息治療剤 2) COPD 治療剤 3) 鎮咳・去痰・呼吸促進剤 4) 消炎酵素・総合感冒剤 5) 禁煙補助剤
5. 解毒剤

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献による補完

<調査期間> 2010年4月～7月

資料タイトル：「2010 医療用医薬品データブック No.3」

体 裁：A4判 370頁

価 格：160,000円（税込み168,000円）

2冊セット価格：300,000円（税込み315,000円）

3冊セット価格：450,000円（税込み472,500円）

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 メディカルグループ

TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514

E-mail: info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもでもご覧いただけます。

URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>